

2022 年度 QSP 子ども育成専門委員会 共同研究 報告書（速報）

関連研究機関名称		QSP(九州西部地域大学・短期大学連合産官学連携プラットフォーム) 子ども育成専門委員会
研究 代表者	所属	西九州大学短期大学部幼児保育学科
	職	准教授
	氏名	川邊浩史
共同 研究者	所属	九州龍谷短期大学保育学科
	職	教授
	氏名	鬼塚良太郎

1. 研究課題名 子ども発達支援士の卒後研修とキャリアアップに関する調査研究

2. 研究期間 令和 4 年 10 月 25 日～令和 4 年 12 月 2 日

3. 研究の概要

<p>大学コンソーシアム佐賀が共同教育プログラムとして実施している「子ども発達支援士養成卒後プログラム(以下「卒後プログラム」という)」は、「子ども発達支援士(基礎)」資格認定者で、連携校の 4 年制大学、短期大学卒業生を対象とした発達障害児の保育・教育に特化したリカレント教育である。卒後プログラム修了者に対して「子ども発達支援士」資格を認定し、保育・教育現場におけるキャリアアップを目指している。プログラムの内容は、登録後に 2 年～3 年かけて連携大学の研修に 6 回以上参加し、最終年度には登録者が所属する事業所の利用者(児)を対象とした事例報告をまとめ、事務局へ提出する。5 大学の学識経験者による最終審査の後、資格取得となる。</p> <p>子ども発達支援士プログラムの開始は平成 24 年度の大学間連携協働教育推進事業まで遡る。この補助事業の最終年度は平成 28 年度であり、最終年度の外部評価にて卒業後の資格保持者のアウトカムを求められ、インタビュー調査を実施していた。それから 6 年が経過しており、基礎資格者(卒業時に取得)が約 1,000 名、本資格者(卒後研修を受けた者)は約 100 名となっている。これまで、ある程度の教育的効果は実証されてきたが(園田ら、2020)、特に卒業後の研修については研修内容の見直し等を行ってきていなかった。</p> <p>今回の研究は、卒後プログラム修了者(現在、登録している者も含む)に対して、卒後プログラムで学んだ内容が現場でどのように役立っているのかについて調査し、卒後プログラムの効果検証を行うことを目的としている。</p>

4. 研究成果・結果

<p>【方法】</p> <p>1) 対象 平成 25(2013)年度から令和 4(2022)年度までに卒後プログラムにて研修を受講した、あるいはプログラムに登録した卒業生 81 名を調査の対象とした。</p> <p>2) 調査の手続き 調査対象者が大学コンソーシアム佐賀に登録している住所へ郵送にて、調査協力依頼文書と Web 調査の方法などを示した文書を送付した。送付にあたっては、大学コンソーシアム佐賀専門教育部会の卒業生データベースを使用(部会の承認を得る)。回答はすべて Web 上(Microsoft Forms)で行った。 調査項目は基本属性、受講した研修の種類、研修を受講したことによる業務への役立ち度、キャリアアップの為に必要と思われる研修、本プログラムへの意見、である。</p> <p>3) 倫理的配慮 調査の最初の項目で同意について問い、同意を得られた場合にのみ回答を得るようにした。また、氏名などの個人情報については任意とした。なお、調査は西九州大学短期大学部研究倫理委員会の承認を得て実施している(承認番号 22NTD-06)。利益相反が生じる内容も含まれない。</p>
--

4) 本研究の公表、社会的意義

① 研究の公表

QSPの報告書としてまとめた後に共同研究者が所属する研究機関の紀要論文等に投稿予定。あるいは、共同研究者が所属する学会にて学術論文として投稿予定。

② 社会的意義

子ども発達支援士(卒後研修)の見直しにより、地域ニーズを反映した研修内容について検討することができる。さらに、研修内容を精査することにより、今後、支援者の養成と発達障害児支援の一助となることが期待される。

【結果】

調査(Web 調査用のQRコード)を郵送した81名の内、18名が宛先不明にて返送された。最終的に63名中14名からの回答を得た(回収率22.2%)

Q1. 現在の所属(業種)について教えてください。

14名の内、6名が保育・幼児教育関連事業所に勤務していた。

Q2. 現在、所有している資格・免許について教えてください(複数回答)

保育士資格所得者が14名、幼稚園教諭免許が13名、小学校教諭免許が3名、養護教諭免許が1名、介護福祉士資格が1名、その他が2名だった。

Q3. 現在の職場における主な職種は？

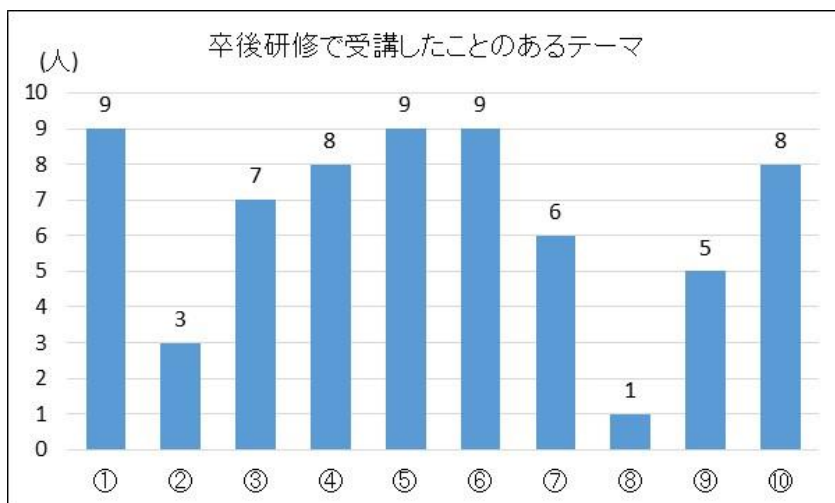
保育士・保育教諭で勤務しているのが8名(57.1%)、生活支援員が2名(14.2%)、小学校教諭が2名(14.2%)、介護士が1名(7.1%)、その他(ヨガ講師)が1名(7.1%)だった。

現在の所属	
訪問介護事業所	1人
保育所・幼稚園・認定こども園	6人
乳児院	1人
小学校	2人
障害者支援施設	1人
障害児通所施設	2人
個人経営	1人

取得している資格・免許(複数回答)	
保育士	14人
幼稚園教諭	13人
小学校教諭	3人
養護教諭	1人
介護福祉士	3人
その他	2人

現在の職種	
保育士・保育教諭	8人
生活支援員(保育士)	2人
小学校教諭	2人
介護士	1人
ヨガ講師	1人

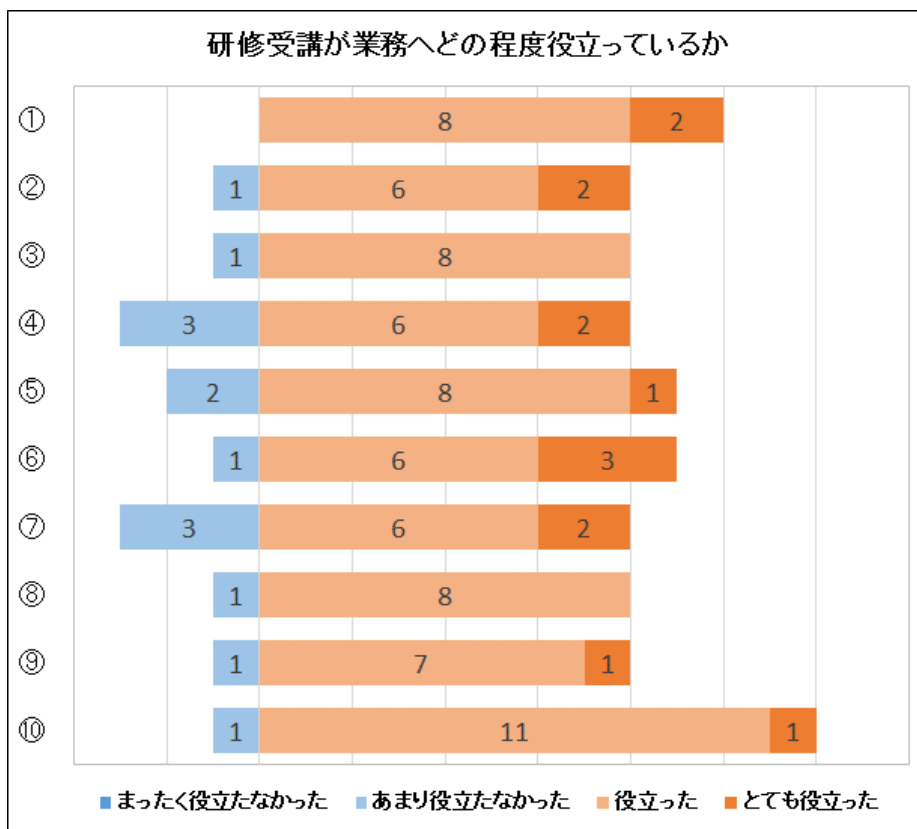
Q4. これまでに卒後研修で受講した研修テーマは？



①	保護者の心理状態の理解2
②	情報を整理して、次の目標を再検討する
③	保護者のニーズの理解と提供する情報の整理
④	子どもの状態に合わせた課題をスモールステップで設定する
⑤	子どもの視点を中心にした課題理解
⑥	保護者の心理状態の理解
⑦	子どもの課題に合わせた教材研究
⑧	福祉制度や療育施設などの情報を知る
⑨	根拠(話し合い、記録、検査など)に基づいた支援目標の設定
⑩	具体的な支援方法・理論・現場での工夫について

②の「情報を整理して、次の目標を再検討する」と⑧の「福祉制度や療育施設などの情報を知る」の2つのテーマ受講数が他と比べて少なくなっている。卒後プログラムの運用規定にて、5大学の研修を6回受け、テーマをすべて網羅するように受講することとなっている。しかしながら、今回の調査では、かなり以前に受講した卒業生もいたため、記憶があいまいになっていることが②と⑧の受講者数に影響を受けていると思われる。

Q5. 卒後研修の各テーマに関して、受講した内容が現在の職場でどの程度役立っているのか
ほとんどの研修テーマに対して「役立った」「とても役立った」という回答が多かった。



①	保護者の心理状態の理解2
②	情報を整理して、次の目標を再検討する
③	保護者のニーズの理解と提供する情報の整理
④	子どもの状態に合わせた課題をスモールステップで設定する
⑤	子どもの視点を中心にした課題理解
⑥	保護者の心理状態の理解
⑦	子どもの課題に合わせた教材研究
⑧	福祉制度や療育施設などの情報を知る
⑨	根拠(話し合い、記録、検査など)に基づいた支援目標の設定
⑩	具体的な支援方法・理論・現場での工夫について

Q6. Q5を受けて、役立った理由とそうでなかった理由

役立った理由とそうでなかった理由について表にまとめた。

卒後研修で「とても役立った」「役立った」を選んだ内容について、そのように思った理由を具体的に教えてください。

アセスメントシートの作成方法や課題の立て方などを資料を通して学べたので。
子どもたちに必要な支援について、具体的に写真や説明を通して学ぶことができたので。

保護者の心理を想像、予測することができたとする。

実際現場で障害児を受け持つ時に発達支援で学んだ療育などを取り入れた保育を行っている。

特別支援が必要な児童との関わりが毎年あるから。

発達の程度やさまざまな特徴によって支援の方法が変わってくるので、個別対応を考えた時にこの関わり方でいいのか、他にも方法はないのか、悩むことが多くあった。勉強してきたことは、もちろん役に立ったが、子ども達と関わっていく中で、具体的な支援方法をもっと知っていたら更に良かったと思うことがあり、とても役立ったには出来なかった。

現場で使える内容が多かったからです。

園ではなかなか聞けない、第三者としての親目線の話聞いたことが、出産経験のない私には話を聞いてよかったと思います。親の気持ちを踏まえて保護者対応していこうと改めて思いました。

現場でその子の特性に合った環境作りや関わりができた。

実際に現場で研修させてもらい、失敗をフィードバックして他の保育者と共有することで学びが深まった。
経験が少ない中の研修は、実際の職場で子どもや保護者と関わる際に大いに役立ち、基礎を学ぶ機会をいただいた。感謝しています。

保護者がどのような気持ちで子供に向き合っているかなどを知ることが出来た。

子どもを支援するにあたり、特性の理解などある程度の知識がないと出来ないと思います。子どもそれぞれに違う特性があり、アセスメントし具体的な支援を行う必要性を感じています。研修では自分で考えたりグループワークをする事で考え方を学ぶ事が出来ました。研修を受けた当時は保育園勤務でしたが、今は児童発達支援事業所で勤務しているので研修を受けて良かったと思います。

卒後研修で「あまり役立たなかった」「まったく役立たなかった」を選んだ内容について、そのように思った理由を具体的に教えてください。

資料や映像が昔のもののように、支援の方法も今のやり方と合っていないように感じたので。また、保育士を何年か経験して、発達障害のある子どもとしっかり関わらないと、分かってこない内容のような気がした。後から資料を見て、やっと「こういうことだったのか」と少し理解できたので、その時はあまり理解できなかった。

実際の現場にあまりいないこと、また、勉強したことを職員にうまく伝えたり、アドバイスするだけの力がなかったため、うまくいかせなかった、という意味合いで記入させていただきました。

園の方針によって、できること、できないことがあるので、聞いた話を実践することができなかった。実践としては役に立てることはできなかったが、話を聞いてよかった。

Q7. 今後の自身のキャリアアップの為にどのような研修を求めているか

自身のキャリアアップとして受講してみたい内容とその理由
テーマについてはいい内容だと思うので、毎年講義も更新され、それを何度も受講し、理解を深めていきたい
各施設の連携や、コーディネーター的役割について学びたい。保育士はコーディネーターだなあと感じているから。
学習障害や学習支援など。その支援を必要とする児童が毎年いるから。
具体的な支援を学びたい。障がいのある子どもや、かかわりが難しい子どもと接していて悩むことが多かったから。
保育園でも、未満児、以上児での実践の話聞けるよう、別の日程で受講の日を設けていただけるとより自分に合った研修になると思います。
専門機関とのつながり方を学びたい。どのような流れで手帳を持ち、どんな手間をかけているのか知りたいから。
現場の職員の連携が大切なのに、現場で働いていて、同僚や上司、後輩などのモチベーションが低かったり、実際に自分もモチベーションが下がったりしたことが大いにあった。現場の士気を上げるために、自身でいくらかは工夫してきたが、組織や団体でモチベーションを保つスキルや知恵を身につけるためのプログラムがあればいいなあと感じた
色々な事業所や施設など実際、現場でどんな風に支援にあたっているか話を聞きたい。また、具体的な支援方法、理論、現場での工夫について学びたい。子ども発達支援士の卒後研修を受講したひとが頑張っていることを知る事で、自分の励みになると思う。

Q8. 今後、子ども発達支援士のプログラムに期待すること、希望すること

子ども発達支援士のプログラムに期待すること、要望
さらに実習などあれば、関わり方など学んでいけるのかなと思います。支援に活かせるグッズなどを教えてもらったり、支援者みんなで考えたり、作成したりし、現場で活用したい。
システム的なことをよくわかっていないまま記入していますので、既にそうなっているのなら申し訳ありません。 一口座いくら、という設定のもと、アーカイブの形で、いつでもどんな人でも受講できるプログラムがいくつかあるといいなと思います。なかなか時間をつくって参加できない人の方が多いと思うので。
もっと、子ども発達支援士の資格が、現場で通用するものになってほしい。
県外の為、出向いてのプログラム参加が厳しい。オンラインでの受講があれば、検討したい。
基礎的なことは学べたので、現場で活かせる為のより深い学びが出来るといいなと思う。資格取得後も学ぶ機会があるとより良いと思っている。
都道府県で子ども発達支援士と言って一緒に働く場が広がればいいなと思う
私がなかなかプログラムに参加できていませんが、今フリーランスで働かせてもらっているのも、発達支援士の研修をもとに現場で少なからず経験を積ませてもらったからです。感謝しています。
子ども発達支援士だから出来ること？というかなんかもったいないというか。それぞれに現場で頑張っているとは思いますが、よくわからない感じがします。コロナでいろいろするのが難しい状況ですが、まとまりがなくて、すみません。

【参考文献】

- 1) 園田貴章, 田中麻里, 水田茂久, 石井宏祐, 鬼塚良太郎, 川邊浩史(2020) 発達障害と子ども発達支援士の養成 -大学コンソーシアム佐賀の取り組み-, 久留米大学教職課程年報, 1, 2-11.
- 2) 川邊浩史・津上佳奈美(2018) 発達障害児に対する療育支援活動の実践(2) -学生の学びを中心に-, 西九州大学短期大学部紀要, 48, 37-43.
- 3) 太田俊己, 橋本淳一, 園田貴章, 川邊浩史, 広瀬由紀, 酒井幸子(2018) 障がい・特別支援にも強い保育者養成をめぐる, 関東学院大学人間環境研究所所報, 16, 41-57.

5. 備考

本研究は、QSP(九州西部地域大学・短期大学連合産官学連携プラットフォーム)の補助金により共同研究として実施した。